

目次／テーマ展「迎る～岩手の囲碁将棋～」表紙／いわて文化ノート「女性の祈り～お産をめぐる習俗を例に～」 p.2-3／展覧会案内 テーマ展「迎る～岩手の囲碁将棋～」 p.4-5／展示替え紹介「いわて文化史展示室 歴史部門展示替え」／実物展示「一関市花泉（金森）遺跡のハナイズミモリウシ」 p.6／事業報告「第87回自然観察会『大窪山の虫たちをさがそう』」／事業報告「ナイトミュージアム」 p.7／インフォメーション p.8

テーマ展

たど
「迎る～岩手の囲碁将棋～」

令和7年1月7日(火)～3月9日(日)

令和六年度 岩手県立博物館テーマ展

主権…岩手県立博物館・公益財団法人岩手県文化振興事業団 会場…岩手県立博物館 オザワ工業ギャラリー（特別展示室）

迎る～岩手の囲碁将棋～

2025
1月7日(火)
3月9日(日)

文久二年二月
二十日麻布於
南部郎富士
見御殿
本因坊跡目
中押勝
秀策

二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五

歩
と
飛
王
角
桂
桂
角
歩
歩
桂

■いわて文化ノート

女性の祈り—お産をめぐる習俗を例に—

民俗部門 専門学芸員 川向富貴子

はじめに

花巻市石鳥谷町にある松林寺は、仁寿年中（851-854）に文徳天皇皇后が六十余州の国ごとに子安地蔵尊を安置すべく創建した寺院のひとつと伝えられます。

本尊の地蔵菩薩半跏像は松林地蔵の通称で親しまれ、古くから安産・子授け、乳授けの御利益を求める人々に崇敬されてきました。

ここに、安産祈願または報謝と思われる江戸時代後期の絵馬が2点納められています（写真1）。『小児必用養育草』や『女重宝記』など、当時ベストセラーになった刊本の挿絵を参考にした構図でしょうか。



写真1) 奉納絵馬

文政6年（1823）銘。県内ではほかに花巻市高木の羽黒神社のみに同種の絵馬【嘉永4年（1851）銘】が確認されている。

いずれも坐位（坐産）の姿勢をとる産褥婦と、生まれたばかりの赤子を産湯に浸ける老女が描かれています。時代的にみて、老女は体系的な医療知識を持たず、経験知で分娩介助を頼まれた職能者（産婆、後の助産婦・助産師に相当する職）の姿と考えられます。

分娩介助のしごと

産婆は江戸時代から認知されていた職業ですが、明治32年（1899）公布の産婆規則や産婆名簿登録規則により、初めて全国的な免許制度が運用されます。

この流れと連動して、岩手県では岩手医科大学の祖・三田俊次郎が明治30年（1897）に岩手産婆看護婦養成所（明

治34年に私立岩手産婆学校へ改組）を開設し、多くの有資格者を輩出しました。

国立公文書館に、昭和17年（1942）度の分娩介助に関するデータがあります（表1）。これによれば、岩手県では出産申告数のうち助産婦（産婆）の立ち会いによる分娩が76.8%と多くを占めています。しかし、医療者の立ち会いがない無介助分娩もまた山梨県、高知県、群馬県に次ぐ高率であったことがわかります。

| | 医療者の介助なし | 医師介助 | 助産婦介助 |
|------|----------|------|-------|
| 全国平均 | 5.5 | 7.0 | 87.5 |
| 東京 | 0.0 | 29.9 | 70.1 |
| 福島 | 0.2 | 5.4 | 94.4 |
| 大坂 | 0.3 | 5.9 | 93.8 |
| 福岡 | 0.7 | 4.2 | 95.1 |

表1) 昭和17年度の分娩介助者 (%)

厚生省調査データによる（国立公文書館/資料番号：昭47厚生00002100、1943）。長崎県と沖縄県のデータ欠。

この状況は、戦後のGHQによる医療・看護改革を経ても大きく改善しなかったようです（表2）。特にも山懐に抱かれた地域では、公営の助産所・母子健康センターの設置や医療者による訪問指導の成果などが実を結び昭和40年代まで続きました。

| | 医療者の介助なし | 医師介助 | 助産婦介助 |
|-----|----------|------|-------|
| 県平均 | 11.5 | 31.0 | 57.5 |
| 岩泉 | 59.6 | 11.1 | 29.3 |
| 久慈 | 30.6 | 16.8 | 52.6 |
| 岩手 | 24.2 | 12.5 | 63.3 |
| 宮古 | 18.8 | 29.5 | 51.7 |
| 福岡 | 17.9 | 17.4 | 64.7 |
| 遠野 | 13.5 | 30.5 | 56.0 |
| 大東 | 5.8 | 11.6 | 82.6 |

| | | | |
|-----|-----|------|------|
| 盛岡 | 4.5 | 50.1 | 45.4 |
| 大船渡 | 4.0 | 36.3 | 59.7 |
| 花巻 | 3.5 | 40.6 | 55.9 |
| 一関 | 3.1 | 30.2 | 66.7 |
| 江刺 | 2.8 | 32.8 | 64.4 |
| 釜石 | 2.5 | 45.8 | 51.7 |
| 水沢 | 2.5 | 34.9 | 62.6 |
| 北上 | 2.4 | 30.4 | 67.2 |

表2) 昭和35年の保健所別分娩介助者 (%)

『岩手県衛生年報』（岩手県厚生部、1957）による。市町村別の無介助分娩は田野畑村90%、山形村86.3%、大野村61.4%、葛巻町58.5%と県北部が高率となっている。

無資格産婆の活動

無介助分娩には近親者や隣近所の女性のほか、サンバ・コナサセ（子を生させるの意）・トリアゲバアサンと呼ばれる無資格産婆が関わっていました。

島山富而（1992）によれば、昭和初期の岩手県では医療者の有無を問わず慣行的に行われ、その方法は今日一般的な仰臥位でなく坐位が採られていたようです。具体的には、①立ち会い者が産婦を背後から抱きかかえ援助する、②天井から垂らした紐にぶら下がるようにして行う、③体を支える米俵の縄や布団などを握りしめて行うなど、多様な方法が採られました。

写真2～4は、二戸地方でコナサセと呼ばれる女性が使用した分娩介助道具です。2は明治5年（1872）生まれの女性が昭和30年頃まで使用した後、浄法寺町内の延命地蔵堂（子安さま）へ奉納したものだそうです。また、3と4は昭和15年（1940）に亡くなった女性が使用したものと伝えられています。コナサセによる分娩介助が信仰やまじないに依拠していたことを物語る品々といえます。

中でも異様に映るのは「熊の掌」の存在でしょうか。残念ながら、この用途は判然としませんが、江戸時代の百科事典『和漢三才図会』にヒントが述べられて



写真2) コナサセ道具

二戸市浄法寺歴史民俗資料館蔵

二戸市教育委員会写真提供

産婦がつかまった力綱、産婦の体を固定するため髪を縛った麻縄、へその緒の切断に用いたヨシ製のスゴロと止血用のキリシネなど。



写真3, 4) コナサセ道具(一部)

二戸市二戸歴史民俗資料館蔵

力米は産婦に嘔ませるかたり眠気を覚ましたりするもの、子安貝(ホシダカラか)は護符を飲むとき水を汲むものという。熊野牛玉宝印や熊の掌は一部欠損が見られる。参考として、北上市の本山派修験伍大院文書「弘法大師秘伝大事」に熊野牛玉宝印の逆さカラスを切り抜いて呑むと「子死シタリトモ生ル」とある。

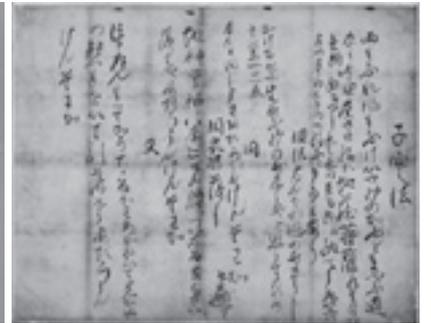


写真6) 中嶋マリノさん

二戸市教育委員会(三角義彦氏撮影)提供
子安講の主宰者として亡くなる直前まで子安さまを祀り、お嫁さんのヨシさんとともに地域の女性たちを支えてきたマリノさん。

おわりに

先行研究に加え、新たに集積されたコナサセと子安さまのデータは展覧会「二戸市の子安さま、さまざま」の開催を経て、1冊の報告書にまとめられました。そして令和6年秋、母子の命を紡いできたコナサセの道具類と子安さま118点は「二戸金田一・浄法寺の子安信仰資料と助産用具」として県の有形民俗文化財に答申・指定される運びとなりました。

—主な参考文献—

畠山富而 1992『地域保健から見た岩手県の母子保健の歩み3』／浄法寺歴史民俗資料館 1991『岩手県浄法寺歴史民俗資料館調査研究報告1』／金田一長寿会 1992『金田一物語11』／二戸市二戸歴史民俗資料館・同浄法寺歴史民俗資料館 2021『二戸市の子安さま』／田口洋美監修『八戸藩庁日記狩猟関係史料集』2016 東北芸術工科大学東北文化研究センター

います。それは、お産に臨む時は自らの手で子をつまみ出し容易に出産する熊にあやかって、傍らに熊の掌を置くと安産になるという記述です。この内容を裏付けるかのように、まじない書「子安し法」(写真4)にも「黒がねの熊手を以て引落さう あびらうんけんそわか」という一文が書かれています。さらに、八戸藩の「用人所日記」享保14年(1729)の条にはお産のために雌熊の手を手配したという記述がみられ、当時「熊の掌」がお産に必要なものと認識されていたことがわかります。

コナサセと子安さま

青森県南東部から岩手県北部にかけて、女性のみの宗教的講を組織し子安さまという安産・子授けの神さまを祭祀する習俗がみられます。

平成28年の夏、二戸歴史民俗資料館の稲葉淳子さんにお声をかけていただき、金田一^{うわの}上野地区の女性たちが祀る子安さまを調査しました。上野地区では各家が1年ごとの持ち回りで子安さまを預かる習わしがありましたが、ある時からコナサセの女性の家に安置するようになったそうです。像高25cmの小さな木造の子安さまは両手で大事そうに赤子を抱いており、その上から丁寧に縫製さ

れた着物を身につけていました。子安さまに奉納された衣装は数えきれないほどあり、地域の女性たちの寄り辺となる存在なのだと思えました。

以来、稲葉さんと浄法寺歴史民俗資料館の中村弥生さんによる合同調査に何度となく同行させていただき、各地の子安講(浄法寺ではオボコビラキという)を訪ね歩きました(写真5)。



写真5) 中嶋家の子安講の様子

二戸市教育委員会(三角義彦氏撮影)提供
旧正月22日、別棟に安置している子安さまを自宅に祀り、お参りに来た女性たちをもてなす。中嶋家と付き合いがあったコナサセや妊婦は鉦の緒をお守りとして借りて帰り、お産が済むと新しいものを作り奉納した。

その過程で、野々上地区では5人のお子さん(1944~1957生まれ)をコナサセからとりあげてもらったという女性—中嶋マリノさん(1926生まれ)、長久保地区ではコナサセとして活動するお姑さんの助手をしていた女性(1937生まれ)と出会い、お話をうかがう機会に

■展覧会案内

テーマ展 たど 辿る～岩手の囲碁将棋～

会期：令和7年1月7日(火)～3月9日(日) 会場：オザワ工業ギャラリー（特別展示室）

■はじめに

古来、日本には盤双六や樗蒲、蹴鞠、貝合わせ、囲碁、将棋など多種多様な遊戯がありました。その多くは、近世に至るまでに廃れたり衰退したりしました。しかし、囲碁と将棋は今もなおたくさんの人々に愛され続けている遊戯です。

今回のテーマ展では、岩手の囲碁と将棋に関連する考古資料、文献資料、民俗資料を展示します。本県における囲碁と将棋の伝来と今日までの広まり、それぞれの時代の碁打ち・将棋指しの姿、暮らしの中に深く根差した囲碁と将棋の姿に思いを馳せていただければ幸いです。

■第1章

～囲碁と将棋のおこりと日本への伝来～

日本の囲碁の源流は中国の囲碁にあり、将棋の源流はインドのチャトランガにあると考えられています。

【囲碁】

古代中国の賢帝堯が、子の丹朱の性行を正すための手立てとして囲碁を発明したという伝説、天文や易の研究のために発明されたものであるといった説があり、発祥は3000年前とも4000年前ともいわれることがありますが、はっきりしたことはわかっていません。文献においては、古くは「春秋左氏伝」や「史記」「論語」などに囲碁の記述を確認することができます。

【将棋】

紀元前300年頃に古代インドのガンジス川の中・上流地域の盤上遊戯“チャトランガ”が起源であるといわれています。

チャトランガは、チェスやシャンチー(中国将棋)、チャンギ(中国将棋)、マークルック(タイ将棋)、日本将棋など、現在も各地で楽しまれている盤上遊戯の源流とされています。

本章ではこのほか、日本に囲碁と将棋が伝来したと想定される時期や経路の諸説について紹介します。

■第2章

～発掘された岩手の囲碁と将棋～

本県では、古くは平安時代に造営された官衙や居館、寺院跡の遺跡から碁石や将棋駒等が出土しています。

【碁石】

朝廷による北方支配の拠点であった胆沢城跡(奥州市)の東方官衙地区から10世紀の碁石が、安倍氏の拠点の一つであった鳥海柵跡(金ケ崎町)からは11世紀前半の碁石がそれぞれ出土しました。これら碁石は、いずれも地鎮具の用途として想定される碁石です。柳之御所遺跡をはじめとした平泉町内の遺跡からは、遊戯具としての用途が想定される12世紀の碁石が出土しています。



碁石

左から石製/土製/水晶製 平安時代(11世紀前半) 鳥海柵掘立柱建物跡 金ケ崎町教育委員会蔵

【将棋】

平泉町内の遺跡から将棋駒等が出土しています。中尊寺金剛院跡からは、いずれも12世紀前半の「金将」と考えられる将棋駒や「銀将」「桂馬」「香車」「歩兵」の将棋駒、「歩兵歩兵」と記された習書木簡など計15点、志羅山遺跡からは平安時代の大將棋(縦横13枰・駒数68枚)で使用された12世紀の将棋駒「飛龍」、柳之御所遺跡からは12世紀後半の将棋駒「歩兵」1点ほか1点、12世紀代の銀将1点、計3点が出土しています。



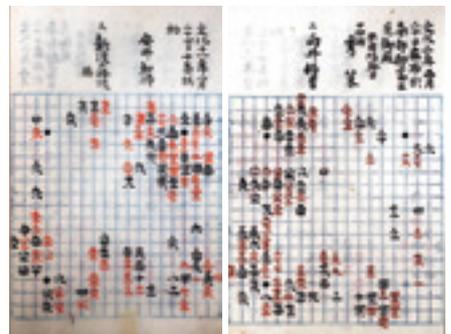
将棋駒表面「歩兵」・裏面「と」

木製 平安時代(12世紀後半) 柳之御所遺跡 岩手県蔵 岩手県教育委員会 写真提供

■第3章

～盛岡藩の囲碁と将棋～

江戸時代後期以降、囲碁や将棋家元の資料や盛岡藩士関連資料から、囲碁や将棋を嗜む盛岡藩士の記録が散見されるようになります。囲碁と将棋の家元が発行した有段者の人名録の資料からは、天保年間から安政年間までの間に、囲碁有段者4名(南部土佐、向井将書ほか2名)、将棋有段者1名(漆戸勇助)の盛岡藩士がいたことがわかりました。囲碁有段者4名はいずれも安井家門下でしたので、盛岡藩の囲碁の手習いは安井家に頼っていたと考えてよいでしょう。このほか、盛岡藩が安井知得や本因坊秀策といった囲碁家元の棋士を招いた碁会の記録、盛岡藩士の間での囲碁の流行を示す諸資料が残されています。



連碁井秀和算知打碁 写本(明治時代初期) 当館蔵より

写真左 盛岡藩士新渡戸丹波と囲碁家元 安井知得(対局当時 跡目) 碁譜
写真右 盛岡藩士向井将書と囲碁家元 本因坊秀策(対局当時 跡目) 碁譜

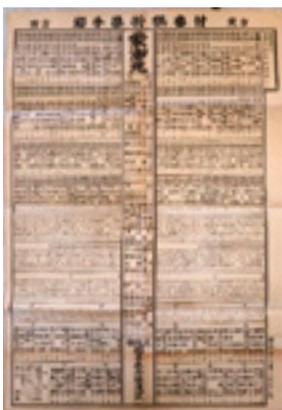


盛岡藩士囲碁番付表（嘉永4年）
新渡戸記念館蔵（十和田市）

■第4章

～岩手に根付く囲碁と将棋～

明治時代以降現代になると、県内愛棋家諸氏の日記や勝負附（勝敗結果の記録表）、囲碁と将棋の県内番付表の記録をはじめとした、多くの囲碁将棋関連資料が残され、大衆に囲碁と将棋が浸透する姿をみることができます。本章では、本県の愛棋家が囲碁や将棋を楽しむ姿を紹介します。あわせて、近世以前から岩手に暮らす私たちに浸透した囲碁や将棋の姿を絵巻や^{まとい}纏ほか民俗資料から紹介します。



岩手県将棋番付昭和28年版
大山将棋記念館蔵（おいらせ町）

■第5章

～岩手の囲碁と将棋きのうきょう～

近年、本県では東日本大震災をはじめとした多くの災禍が発生しました。本章では、東日本大震災後の地域の賑わいや

交流人口の拡大に向けた『囲碁によるまちづくり』の取り組み、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延により一変した将棋大会の風景を紹介します。



再建された碁石盤：平成28年
中森熊野神社 囲碁神社（大船渡市末崎町）境内

■第6章

～さまざまな囲碁と将棋～

本章では、岩手の囲碁と将棋に関する資料から離れ、囲碁と将棋全般の資料を展示します。近世から現代までの棋書や碁石の原材料、将棋駒の製作用具や製作途中段階の将棋駒、駒置物、古美術品など、貴重な資料を幅広く取り上げます。



将棋図巧 上下
江戸時代
当館蔵

碁経精妙
巻一～四
明治24年
当館蔵



将棋駒形菓子型
明治～大正時代
当館蔵

■おわりに

ここでご紹介した他にも、盛岡藩士が所有した棋書や盛岡藩の絵師川口月嶺が描いた碁碁書画図（下絵）、講道館柔道

十段三船久蔵氏（久慈市出身）の将棋関連資料、県内出身の現役プロ棋士（外柳是間五段：囲碁、小山怜央四段：将棋）の揮毫等を展示します。また、展示室内の床面には近世の詰碁と詰将棋の問題を貼り出しております。ソファに腰掛けてお楽しみください。当館2階のミニプラザには、壁面に初心者～初級者向けの詰将棋と詰碁の問題掲示等の企画を準備しております。こちらもお楽しみください。

テーマ展関連事業

■展示解説会

1/18(土) 2/2(日)

14:00～15:00

当日受付・要入館料

■県博日曜講座（展示関連講座）

1/26(日) 13:30～

当館講堂・当日受付・聴講無料

■囲碁体験教室

2/8(土) 10:00～11:30

当館教室・当日受付・参加無料

対象：4歳以上の初心者の方
（未就学児が参加する場合は保護者同伴。）

■囲碁解説会「盛岡藩士 向井将曹と本因坊跡目 秀策の棋譜」

2/8(土) 13:30～14:30

講師：渡邊健氏

当館講堂・当日受付・聴講無料

■将棋体験教室

2/22(土) 10:00～11:30

当館教室・当日受付・参加無料

対象：4歳以上の初心者の方
（未就学児が参加する場合は保護者同伴。）

■将棋トーク「岩手で将棋指しを育てる」

2/22(土) 13:30～14:30

ゲスト：土橋吉孝氏 藤原隆史氏

当館講堂・当日受付・聴講無料

（専門学芸員 村田雄哉）

■展示替え紹介

いわて文化史展示室 歴史部門展示替え

いわて文化史展示室の歴史部門展示では、学芸員の調査研究の成果や世相を写す資料、新収蔵資料などを紹介しています。今回、同展示のおよそ半分にあたるスペースの展示を変更しましたので、ご紹介いたします。

まずは、岩手県南部、旧仙台藩領の村に伝わった、江戸時代を中心とした古文書群の一部です。江戸時代は、文書のやりとりによって、都市に住む武士が村に住む百姓を統治するという行政システムが確立した時代です。今回の展示では、主に村で作成された文書を展示し、作成過程や、紙の使い分けや使い方の変化などを通して、仙台藩の地域行政の実際を紹介しています。これらの古文書は、解読、整理を進めることで、地域の実像を

明らかにすることができる、貴重な資料です。

次に、近代岩手を代表する文化人、太田孝太郎が収集した、古印を中心とした歴代中国の文物です。

これまでも同古印は数度にわたり展示されてきましたが、今回はそれに加え、りゅうかいゆう たまざわゆう き おおた む あん ちゅうごくきんせき劉海宇・玉澤友基『太田夢庵 中国金石しゅうざうとざうひんちようく収蔵与蔵品著録』(上海世紀出版集団、2024)で世に出た、初公開の資料を展示しています。約2,300~2,000年前に使用されたたいこう帯鉤(帯留め)、かんざし鈴、やしり簪などの実用品を紹介していますが、目玉資料の「ごうふたいこう合符帯鉤」の一つは、ペアとして作られた帯鉤が一度はさんいつ散逸したが、約2,000年の時を経て、太田孝太郎の手により再会した、というものです。

また、同展示では、近年の中国史研究の成果を踏まえて、古印印面の説明をしております。今後も小規模な展示替えを行い、太田孝太郎の収集品が現在の中国史研究の進展にも寄与していることを紹介する予定です。

これ以後も歴史部門では、古美術品の展示替えを計画しています。ぜひお越しいただき、ご覧ください。

(専門学芸調査員 工藤健)



■実物展示

一関市花泉(金森)遺跡のハナイズミモリウシ

展示期間：令和6年6月8日(土)~8月31日(土)

総合展示室(地質・考古)には、旧石器時代の野牛・ハナイズミモリウシの全身骨格レプリカを展示しています。ハナイズミモリウシは、戦前に地権者の沼倉清治さんが井戸掘削中に大量の動物骨を見つけたことに端を発し、10数年に渡る発掘調査によって数個体が確認されています。特に昭和30年の第3次発掘調査は元花泉村長の佐々木盛輔さん主導で行われ、頭骨を含む大量の動物骨化石が出土しました。

当初、温暖期の貝化石の伴出を根拠に鮮新世(530万~260万年前)の可能性を指摘されたこともありましたが、その後の地層検討や放射性炭素年代測定を経て、現在では約2~3万年前の最終氷期最寒冷期のものとされています。

昨年、佐々木盛輔さんの孫・小野寺博さんから、盛輔さんが所有していた花泉(金森)遺跡関連資料を寄贈いただきました。当館をお選びいただき大変名誉なことと職員一同感謝しております。「研究活動を再開してほしい」「広く一般の方に見てもらいたい」との小野寺さんのご希望に沿うべく6月8日~8月31日に実物展示を行いました。全身骨格レプリカの隣に、実物の頭骨化石を配置し、オオツノジカ角化石も展示しました。小中学校の夏休み期間でもあったため、大勢のお客様がご覧くださり大変好評でした。

現在、年代測定用のサンプル採取やDNAサンプル採取が可能か検討中です。今まで40年以上前に測定されたデータ

をもとに年代が語られていましたが、より古い年代が得られるかもしれません。また、DNA検査が可能であれば、4.5万年以上前から元々古本州島にいた野牛の末裔なのか、それともユーラシア大陸にいた野牛が2.8万年前頃に始まる最終氷期最寒冷期に古北海道島から古本州島にやってきたのか分かるかもしれません。今後の調査・研究にご期待ください。

(主任専門学芸員 米田寛)



ハナイズミモリウシ頭骨化石(実物)

■事業報告

第87回自然観察会 「大窪山の虫たちをさがそう」

日時：令和6年7月21日(日)、10時～12時30分 場所：大船渡市大窪山森林公園 もりの学び舎周辺

今回の自然観察会は大船渡市三陸町吉浜の大窪山森林公園を会場に、大船渡市立博物館との共催で開催しました。「虫たちをさがそう」がテーマで、参加者は子どもも大人も捕虫網を振りながら虫たちを捕まえ、見つけた昆虫やクモは講師の千葉武勝氏（当館研究協力員）と担当の渡辺が、その名前や生態を解説しました。

集合場所の建物周辺では、里で羽化して山に移動してきたアキアカネのほか、ジャノメチョウやヒカゲチョウなどが数多く見られました。森林の周辺部では多くの昆虫が飛び交っていますが、森の中に入ると見かける昆虫の数が意外と少なくなることや、鹿よけ柵の内外を比較して、植生がシカによってどれほどの影響を受けているのかを観察しました。

森を出た道沿いでは、花にアオハナムグリやヨツスジハナカミキリなどの甲虫や、ウラギンヒョウモンやヤマトスジグロシロチョウなどのチョウ類が集まっていました。また、オニヤンマが何度も往復してくるので、子どもたちは一度採集に失敗しても再び飛んでくるところを狙って何度も捕獲に挑戦しました。

散策路の途中にある池ではアカハライモリが泳いでおり、周辺ではシオカラトンボやタカネトンボなど様々なトンボを見ることができました。池のほとりの木のやや高いところには、希少種のコケオニグモがいましたが、緑色の模様と同じような地衣類のとなりにはため見分けがつかず、写真にとって拡大するまでどこにいるのかわからなかった人もいました。



背景に紛れるコケオニグモ

観察会の終わりには、草原の広場では時間の許す限りチョウやバッタを追いかけて、ハネナガフキバッタやヒナバッタ、カマキリなどを捕まえました。

最近では夏の初めから暑く、熱中症が心配される季節でしたが、少し雲がかかる時間があるなど過ごしやすい気候の中で観察会を実施できました。

(主任専門学芸員 渡辺修二)

■事業報告

ナイトミュージアム

開催日：令和6年8月9日(金)・10日(土)

夏休み期間中の8月9日(金)・10日(土)の2日間、主に小中学生を対象とした恒例の「ナイトミュージアム」を開催しました。夕方の閉館後に、展示室の照明を消して扉を閉じ、暗闇の中で常設展示をいつもと異なる雰囲気で見賞していただくイベントで、毎年好評をいただいています。今年は3倍の抽選を突破した計34名がご参加くださいました。



イベントでは、各分野の学芸員がとっておきの展示について解説します。今回は、考古部門は昔の埋葬の様子について、歴史部門は古い盛岡駅舎・昔の生死観・流通網について、地質部門は蛍光で光る鉱物について、生物部門はホタルの発光行動について紹介しました。民俗部門は、昔の暮らしについてドラマ仕立てで紹介し、大変好評でした。



来夏も同じ時期に開催予定です。たくさんのご応募とご参加をお待ちしています。(専門学芸員 高橋雅雄)





岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション

〈令和6年12月1日～令和7年3月31日〉

お知らせ

●年末年始の休館

12月29日(日)～1月3日(金)は休館します。

展覧会

●テーマ展「迎る～岩手の囲碁将棋」

令和7年1月7日(火)～3月9日(日)

会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)

古代日本に伝来した囲碁と将棋が、時を経て岩手に広まり嗜まれ、文化として根付くまでの歩みを紹介します。

◆展示解説会

①1月18日(土)、②2月2日(日) 各14:00～15:00

会場：オザワ工業ギャラリー(特別展示室)、当日受付、要入館料

◆日曜講座 当日受付 聴講無料 13:30～15:00

1月26日(日)「文献に眠る岩手の碁打ち・将棋指し」

講師：村田雄哉(当館学芸員)

◆囲碁解説会

2月8日(土) 13:30～14:30 講堂、当日受付、聴講無料

「盛岡藩士 向井将曹と本因坊跡目 秀策の棋譜」

講師：渡邊健氏(日本棋院岩手県本部幹事長)

◆将棋トークイベント

2月22日(土) 13:30～14:30 講堂、当日受付、聴講無料

「岩手で将棋指しを育てる」

講師：土橋吉孝氏(日本将棋連盟釜石支部長)

藤原隆史氏(岩手中・高等学校教諭 同校囲碁将棋部顧問)

◆初心者向けイベント

囲碁体験教室

2月8日(土) 10:00～11:30 教室、当日受付、参加無料

将棋体験教室

2月22日(土) 10:00～11:30 教室、当日受付、参加無料

●テーマ展「驚異の部屋」(博物館所蔵珍品・お宝大集合)

令和7年3月29日(土)～5月18日(日)

会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)

各部門からこれまで展示されてこなかった資料や怪奇珍品、謎の資料、高価な資料などを展示紹介いたします。

週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○12月7日 冬休みアニメスペシャル

「ミッキーマウスとゆかいな仲間たち」

(アニメ10分/幼児～小学生向け：フィルム映画)

「サンタのいないクリスマス」

(人形アニメ/45分/幼児～小学生向け：フィルム映画)

○2月1日 小津安二郎の名作選

「お茶漬の味」

(実写/115分/一般向け)

○3月1日 日本カトリック映画賞2019年度受賞作

「こどもしょくどう」

(実写/93分/一般向け)

※1月はお休みします。

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

12月14日・15日・21日・22日 テーマ：口(しかく)

1月11日・12日・13日・18日・19日 テーマ：長い(ながい)

2月8日・9日・15日・16日 テーマ：光(ひかり)

3月8日・9日・15日・16日 テーマ：春(はる)

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メールアドレスで受け付け(一度に3名まで)、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

| | | | | | |
|-----|-----|---------------|----|-----|----------------|
| 12月 | 1日 | 松ぼっくりのXmasツリー | 2月 | 2日 | お絵かきはんこ |
| | 8日 | かんたん門松 | | 9日 | いわてのどうぶつしょうぎ |
| | 16日 | まゆで干支づくり(巳)★ | | 16日 | おひなさまづくり |
| | 22日 | まゆで干支づくり(巳)★ | | 23日 | 化石のレプリカ |
| 1月 | 5日 | 木のかまの絵つけ | 3月 | 9日 | アンモナイトの消しゴムづくり |
| | 19日 | たこづくり | | 16日 | 天然石のフォトフレーム |
| | 26日 | スライムであそぼう | | 23日 | 手づくり万華鏡★ |

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

■ 県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

12月8日「忘れられたパンデミックスペイン・インフルエンザと

新型コロナウイルス感染症一」 日時和哉(当館学芸員)

12月22日「岩手の江戸時代の古文書」 大銃地駿佑(当館学芸員)

1月12日「文化財を守るための環境管理」 山崎遙(当館学芸員)

*1月26日「文献に眠る岩手の碁打ち・将棋指し」

村田雄哉(当館学芸員)

2月9日「収蔵地質標本の産地を巡って」 佐藤修一郎(当館学芸員)

2月23日「科研費研究成果報告 オオセツはどこで越冬するか」

高橋雅雄(当館学芸員)

3月9日「岩手県の植物相を調べよう!」 鈴木まほろ(当館学芸員)

3月23日「続 雑学のススメ」(笑い頭の体操)～中高年の皆さん

と一緒に考える名言 No.4～(沢尻栄一も愛した論語とは…。孔子の言葉は、時代を超えて今もなお私たちの心に

響き続けています) 高橋廣至(当館館長)

■ 冬休みのイベント

◆こども向け展示解説

令和6年12月24日(火)～令和7年1月10日(金)の平日に随時受付

当館解説員が、手で触れられる資料を紹介いたします。

参加希望の方は、解説員にお声がけください。

◆冬のワクワク!ワークショップ 化石のレプリカづくり

令和7年1月11日(土) 要事前申込

実物の化石から型をとった石膏こに色をぬって、レプリカをつくりま

す。①10:00～10:40 ②11:10～11:50

(受付開始 9:50) (受付開始11:00)

③13:20～14:00 ④14:30～15:10

(受付開始13:10) (受付開始14:20)

対象：3歳以上の幼児～小学生(幼児は保護者のつきそいが必要です)

各回定員10名 材料費：100円

予約は、12月15日(日)～12月23日(月)の期間に、専用メールアドレス

で先着順に受け付けます。参加するお子様の名前・年齢、保護者の電話番

号をお知らせください。詳細や予約状況は当館HPをご覧ください。

◆ワードクイズ

令和6年12月24日(火)～令和7年1月10日(金) 随時受付

展示に関する3種類のワークシートを配布します。

館内を探検しながら、ワークシートに挑戦しましょう。

■ ミュージアムドラマ(演劇公演)

劇団しばいぬ演劇公演「サンタ、くろうす」

令和6年12月15日(日) 13:30～14:30

講堂、要事前予約、観賞無料

来年結成15周年を迎える劇団しばいぬによる演劇公演です。

サンタさんとトナカイによる楽しいお芝居をお楽しみください。

予約は、10月1日(火)～12月14日(土)の期間に、当館HPからお申

みください。

定員140名、先着順、座席指定なし

■ 利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

※12月29日(日)～1月3日(金)は休館します。

■入館料 一般330(150)円・大学生150(80)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

| | |
|------------------------------------|---|
| 岩手県立博物館だより 第183号 令和6年12月1日発行 | 編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595 |
|------------------------------------|---|